

Catalyst 3850スイッチのサブモジュールでサポートされていないトランシーバのトラブルシューティング

内容

[はじめに](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

はじめに

このドキュメントでは、ギガビットインターフェイスコンバータ(GBIC)または着脱可能小型フォームファクタ(SFP)光トランシーバモジュールに関する一般的な問題について説明します。

問題

Catalyst 3850スイッチに特定のGBICを挿入すると、次のエラーログを受け取る場合があります。

```
%PLATFORM_PM-6-MODULE_ERRDISABLE: The inserted SFP module with interface name Gix/y/z is not supported
%PM-4-ERR_DISABLE: gbic-invalid error detected on Gix/y/z, putting Gix/y/z in err-disable state
```

この問題は、GLC-SX-MMDおよびサードパーティのSFPでよく見られます。

解決方法

SFP、サブモジュール(C3850-NM)、またはCatalyst 3850バックプレーンのハードウェアの問題と考える前に、次の点に注意してください。

- SFPと、スイッチ、サブモジュール、およびソフトウェアバージョンの間の互換性を確認します。詳細については、『[Cisco Optics Interoperability Matrix User Manual](#)』を参照してください。
- 一部のSFPは、Catalyst 3850スイッチで動作するために設定とアクションが必要です(ほとんどは、サードパーティベンダーによって製造された場合)。次のコマンドを入力します。

```
<#root>
```

```
3850(config)#
```

```
no errdisable detect cause gbic-invalid
```

```
3850(config)#
```

```
service unsupported-transceiver
```

SFPモジュールを取り外し、ポートをシャットダウン/シャットダウンせず、SFPモジュールを再挿入します。

- 次のソフトウェア不具合を考慮してください。
 - Cisco Bug ID [CSCut94443](#):OIR後にGLC-SX-MMDが認識されない
 - Cisco Bug ID [CSCuj31712](#) : 特定のベンダーのSFPがOIR時にポートを強制的にerr-disableにする

バグが発生した場合でも、コードの安定したバージョンに移動することをお勧めします。cisco.comの推奨バージョンは、このタイプのインシデントの修正に役立っています。詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- [Catalyst 3850 シリーズ スイッチのアップグレード、管理、および回復の方法](#)
- [Cisco Catalyst 3850 シリーズ スイッチ](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。